鶴田ダム　鶴田ダムを活用した地域活性化の取組

■実施主体：NPO 法人　ひっ翔べ！奥さつま探険隊ほか

■ダム活用箇所：監査廊、ダム湖内、放流見学

■ダム所在地：鹿児島県薩摩郡さつま町

■ダム管理者：九州地方整備局　鶴田ダム管理所

■ダム完成年度：1966（昭和 41）年

■ダム再開発完成年度：2018(平成 30）年

■ダム形態：重力式コンクリートダム

再開発が完了した鶴田ダム

■取り組みのポイント

①ダム見学会を運営。事業主体は NPO 法人　ひっ翔べ！奥さつま探険隊。

②流域の活性化を目指す「川内川水系かわまちづくり推進協議会・かわまちづくり観光振興部会」を設置。

■取り組みの概要

・ダム見学の来訪者を団体向けと個人向けに分けてカテゴリー化。各々に異なるガイド内容を検討している。

・流域の複数の観光地を結ぶつけることで流域に宿泊してもらうなど、流域全体での魅力向上を目指している。ダムも観光資源として捉え、点検放流を絡めるとともに上記のカテゴリーを組み合わせた有料モニターツアーを実施した。

・令和 5 年 10 月「都市・地域再生等利用区域(オープン化)」によりインフラツーリズム等による地域振興の推進、案内ガイドによる地域の方々の活躍の場を創出した。

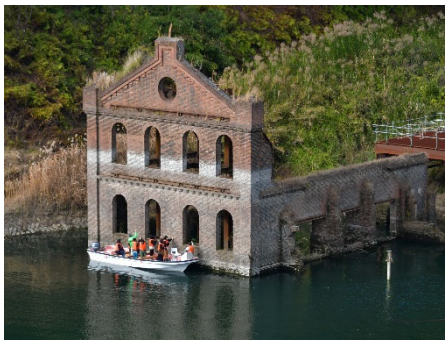
特色のある積極的なダム見学

普段は入ることのできないダム直下の見学

鶴田ダムイメージキャラクター「ゲートマン+クレストマン」

曽木の滝。「東洋のナイアガラ」とも呼ばれ、多くの人が訪れる

監査路を活用した焼酎貯蔵



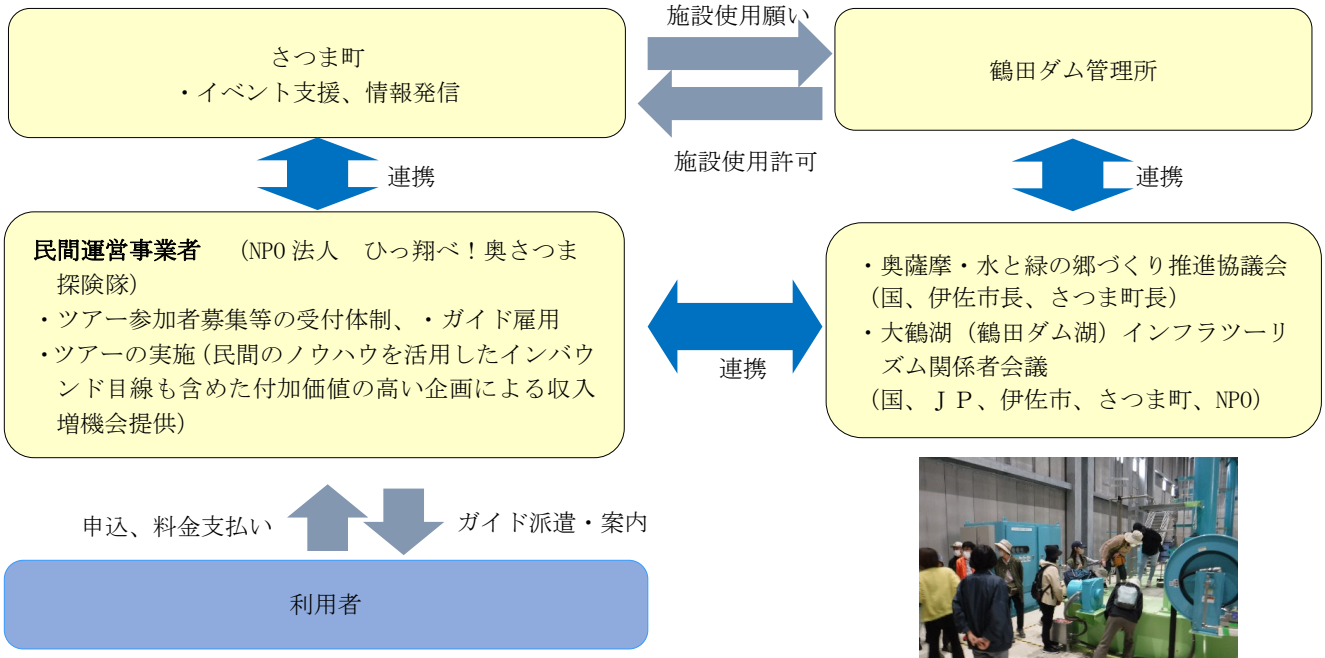
水位変動により出現する曽木発電所遺構の見学ツアーを実施

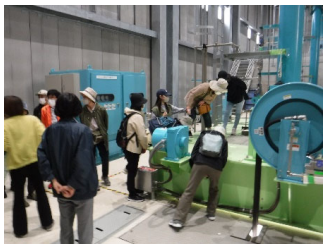
■人・組織

・NPO 法人　ひっ翔べ！奥さつま探険隊：さつま町管理の川内川大鶴ゆうゆう館事業の指定管理者として、ダム見学などインフラツーリズム等の運営を実施。
・川内川水系かわまちづくり推進協議会・かわまちづくり観光振興部会：自治体別に行っていた河川環境整備を、流域一帯でのかわまちづくりを行い、地域の活性化に資することを目的に「川内川水系かわまちづくり推進協議会（構成機関：薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市、鹿児島県、宮崎県及び国）を 2016（平成 28）9 年 3 月設立。かわまちづくりを中心とした川内川流域の観光振興に取り組み、交流人口の増加を目指す「かわまちづくり観光振興部会」を 2017（平成 29）年 6 月に設立した。
・さつま町など：イベント支援や情報発信など様々に支援。
・鶴田ダム管理所：ダム見学に関わる人的支援やイベント等に積極的に協力。

■しくみ

〔事業スキーム〕




鶴田ダム内部見学

■地域連携方策

・沿川自治体やダム管理者、民間事業者が連携したダム見学等を実施。
・川内川 5 市町連携スタンプラリーを実施。観光施設や温泉を巡ってポイントを獲得し、ポイントに応じて特産品が抽選で当たる企画をかわまちづくり観光振興部会が実施。

■取り組みの成果

・アフターコロナからの取組みとして、①ダムや地域を案内するガイドの養成や体制づくり、②ダム見学と合わせた地域の宿泊プランづくり、③国、流域市町と協力した、地域活性化に向けたしくみづくり、④ダムを活用した地域活性化の取り組みの継続等を検討中。

川内川周遊スタンプラリー